

合格後の過ごし方&準備編

全力を尽くして出願を終え、年が明けるといよいよ合否通知が届く季節です。自分の学校が既に通知を出しているのかを grad café というサイトでチェックしながら不安な毎日を過ごします。そして2月のはじめあたりから、ぼつぼつと合格通知が届き始めます。それぞれ思いを込めて出願した大学院からの合格通知はとても嬉しいものです。しかし、当然のことながら複数の大学院から合格を頂いても最終的に進学できるのは一つの大学院だけです。今後、何年間も過ごす大学院を決めるというのはとても大きな決断であり、出願プロセスと同じくらい大事なプロセスだと思います。日本で既に修士を終えている人、留学先でやりたい研究の方向性がすでにはっきり見えている人は、あまり迷うことがないでしょう。しかし、まだやりたい研究があまり明確でない人はなかなか決断できないこともあるかもしれません。どちらにせよ後悔の無い決断をするために、まだ合格先を訪問したことの無い人にはぜひ訪問をオススメします。(特にアメリカの大学院ですと5万円程度の旅費のサポートも受けられます。) ウェブサイトから想像する大学院と実際に足を運んでみた大学院の見え方は全然違いますし、論文で想像する教授と実際に会って話してみた時の教授の見え方は違うと思います。実際に足を運び現地の先生や学生と会話し、多くの先輩方に意見を伺い最後は自分の責任で後悔のない決断をすることがとても大事だと思います。

大学院が決まったら、渡航の準備を始めます。最も大切なのは、VISA の取得です。基本的な書類(DS-160 等)は個人で申請できます。ただ、F-1 ビザ申請用の I-20 に関しては、米国の大学から送ってもらう必要がありますので、早めにご取得すればよいかを確認しておきましょう。結婚されていてご家族を連れて行かれる場合、I-20 の代わりに J-1 ビザ申請用の DS-2019 を申請するなど、例外がある場合はなおさらです。後述するサマースクールに参加される場合は注意が必要です。通常、秋学期が始まる1ヶ月前からしか入国できないため、サマースクールに通う旨を伝えることを忘れないよう気を付けてください。(サマースクールを他大で行う場合は、別途申請が必要です。) I-20 さえ取得できれば、面接等のプロセスはありますが、ほぼ VISA は取得できると思います。多くの米国の大学では予防接種が必要です。何の接種が必要かは各大学で確認してください。一度に複数の予防接種を行うことができない場合もあるので、早めに動いておくといいかと思います。(渡米後に大学で行うこともできるので、間に合わなくても問題はありませんが…) また、米国では歯医者にかかるが高額なため、歯の検査、及び親不知の抜歯はしておくいいかもしれません。

VISA などの手続きが終わると、いよいよ現地生活の準備をすることになります。日本とは制度も文化も違う地域への留学ということで、多くの情報が必要です。情報収集の手段として最も便利な方法は、過去の日本人の方が発信する生活情報にアクセスすることです。主な情報源としては先輩の個人ブログが一般的ですが、多くの地域では、情報をまとめた Wiki のようなものが準備されています。例えばピッツバーグでは ”ピッツバーグ便利帳”、ロンドンでは ”ミックスビー”など、地域に特化した情報が沢山掲載されています。また、現地日本人のメーリングリストや Facebook グループなどが整備されていることが多いためチェックしておくといいでしょう。Visa の情報や治安の情報、スーパー、レストラン、娯楽など生活に関する多くの情報が発信されていますので大変役に立ちます。また、Moving Sale (先輩が帰国する際に現地で家具等を売買すること) の情報も得られ、安心して中古車、中古家電を購入することが出来ます。

日本の大学は3月に卒業ですが、海外の大学院は夏または秋に入学するのが一般的です。そのため、大学を卒業してから海外の大学院に入学するまでに、数ヶ月のギャップタームが存在します。この時期をどう過ごすかは人によって様々です。

留学生の中には、通常の入学時期より早く研究室に行き、研究を始める人もいます。あるいは日本の大学院に一時的に在籍するという選択肢もあります。留学先で研究したいテーマに関連した講義の受講や研究活動ができれば、海外大学院に入学した後に役立ちます。留学先の研究テーマと関連のない経験をすることも、選択肢のひとつです。留学先以外の国でのインターンや、フリーランスでの活動はキャリアを考えた時に、有利に働くことがあるかもしれません。大学が主催するサマースクールへの参加も、ギャップタームの有効な活用方法です。サマースクールとしては語学学校が主流ですが、大学によっては専攻が夏季授業を主催することもあります。進学先以外の大学のサマースクールを受けることもできる場合があります。サマースクールに参加することの第一目的は学期が始まる前の英語運用能力の向上とウォーミングアップですが、サマースクールに参加することの利点は他にもあります。それは、授業が始まるよりかなり早い時期に渡航することができるということです。そのため、住む場所を決めたり家具をそろえることができたりと生活の立ち上げを余裕をもって行うことができます。学期開始直前に留学先へ移り住む場合、良いアパートはもう埋まってしまっていることが多く選択肢が限られて苦労したという話をよく聞きます。私(猪爪)もサマースクール期間中に仮住まいに住みつつアパートを見つけました。もう一つの利点は、研究の基盤づくりができたことです。私はサマースクール期間中に現在の指導教官と会い、一緒に研究をすることを決めることができました。また、研究室を卒業する先輩から引継ぎを行い、スムーズに研究を開始することができました。このように、サマースクールへ参加することの利点は大きいです。

ギャップタームで数ヶ月の期間を自由に過ごせるというのは貴重な機会です。選択肢は人それぞれですので、自分に合った選択肢を選び、ギャップタームを有効活用しましょう。

こういった色々の準備期間を終えて、いよいよ PhD の過程が始まります。ここからは苦労の連続ですが、夏のあいだの準備が後でとても役立つと思う瞬間もあるはず。ぬかりなく準備して、夏を楽しみ、最高の留学生生活をスタートさせましょう！

グループメンバー

猪爪宏彰、金石大佑、川上和也、田中秀宣、畠山大輝、吉本英樹

文章編集

猪爪宏彰、吉本英樹